

ひまわり



歯科検診結果号

先週の木曜・金曜日に実施された歯科検診について報告します。

今回、検診を終えての学校歯科医の感想です。



「きれいな歯の人もたくさんいましたが、

全体的にむし歯の疑いがある人が少し増えているように感じました。

朝の歯磨きを、あと少し丁寧に出来るとよりよいですね。」

「学校の歯科検診ではライト明るさに限界があるため、正確に診断することは難しいです。そこで、歯科検診の判定は、少し怪しいなどと思った歯は、**むし歯の疑い (C0)**として診断しています。むし歯 (C) という判定はほとんどしていません。なので、**C0**で「経過観察」というお知らせをもらった人も、是非早めに一度かかりつけの歯医者さんを受診し、クリーニングしてもらうなどしてほしいです。」

学校歯科医 濱坂 純一 先生より



歯科検診の結果「要観察歯」と判定された人は、結果のお知らせ（ピンク色の用紙）では「経過観察」となっていますが、小松市では、むし歯の予防や早期発見、及び治療のために「要観察歯」の方にも受診をお勧めしていますので、歯科医での受診をお願いいたします。なお、受診後は歯科医の記入を受け学校へ提出してください。

※歯列・咬合（はならびやかみあわせ）の詳しい説明は裏面に記載しておきますので参考にして下さい。

なお、今回、家の都合や、体調不良で歯科検診を受けられなかった人は、後日、お家の人と一緒に濱坂歯科医院にいって、受検していただきます。

受検の日は、学校でスケジュール調整をしますので、しばらくお待ち下さい。個別に予定をお伺いするお知らせを出します。

中学3年生までむし歯が一本もなく、歯並びがきれいな人は「**よい歯の生徒**」という審査会にでるチャンスがあります。

歯科検診の時に学校代表候補の審査をしたので、その結果は後日お知らせしますね。楽しみに待っていて下さい。



歯科健康診断結果　歯列・咬合についてのお知らせ

歯列・咬合とは、歯並びやかみ合わせのことです。「食べ物を取り込み、食べる」機能、「表情をつくり、話す」機能及び「運動を支え、体のバランスをとる」機能等に直接かかわっており、食生活のみでなく生活の質全体に関係しております。歯列・咬合の不正は、子供の成長発育段階により、噛む・話す・呼吸する・体のバランスをとるなどの発達に影響が見られる場合があり、学校での学習にも影響がでる場合があります。

学校歯科健康診断の結果に記載される歯列・咬合の不正は、主に「反対咬合」「上顎前突」「歯数異常」「開咬」などがあります。

○上下の前歯のかみ合わせが前後逆になる「反対咬合」、上の前歯が前方に出ている「上顎前突」は成長発育不全（上顎発育不全・下顎発育不全）を起こしやすくなります。また発育の状況により、歯周病やむし歯のみでなく、嚥下（飲み込み）の時に舌を突き出す癖や口呼吸に関連することもあります。

○本来生えてくるべき歯数と異なる「歯数異常」は、先天性欠損や埋状歯、過剰歯がある場合が多く、手術による治療が必要な場合、その後に矯正処置が必要な場合があります。

○かみ合わせたときに、前歯の上下に隙間ができる「開咬」の場合は発音（構音）に問題が起き、サ行やタ行が発音しにくい等の障害がおこる場合があります。原因が指しゃぶりなどの癖の場合、癖の中止や早い時点でくちびるの訓練を行うことにより、改善がみられる場合があります。重度の場合は、将来的に矯正治療の検討も必要です。

※詳しくは専門医もしくはかかりつけ医にご相談ください。